

# 平成 28 年度

## 墨田区立小梅小学校 学校経営方針

墨田区立小梅小学校  
校 長 五十嵐光春

### 1. 目指す小梅小学校像

- ◎ 地域・保護者とともに『安全・安心・学び』を保証する学校
- ・ 児童の生命の安全、心の安心と質の高い学習を保証する学校
- ・ 人権尊重の精神と社会貢献する心を育てる学校
- ・ 自主・自立する心と創造性を育み、自己実現できる学校
- ・ 生涯学習の基礎となる意欲・向上心を育成する学校
- ・ 児童とともに地域・保護者・教師が育つ「学びの場」としての学校

### 2. 小梅小学校のスローガン

『笑顔で迎え、満足で帰す小梅小学校』

### 3. 児童を取り巻く環境

小梅小学校は大正 9 年の創立で、今年 96 年目にあたる。関東大震災や東京大空襲等、辛く厳しい歴史の中を生き抜き、地域のあつい思いに支えられてきた学校である。本校卒業生も 14500 人を超えた。在学生の中には小梅小学校卒業親子 3 代となる家庭もあり、本校の教育に対して格段の思いをもっている。平成 24 年 5 月 22 日に開業した「東京スカイツリー」の影響で、休日には駅周辺だけでなく大通りは外国からのお客様も含め、大混雑している。また、『春は花見、夏には花火、秋といえばツリーとまん丸満月、冬になれば鍋を囲んで屋形船』と言われるほど下町情緒豊かな環境の中にあり、平日も近隣の神社・仏閣巡りで、花街の風情を残す細い路地にも多くの観光客で賑わっている。

教育に関して、本校を含め墨田区全域の小中学校は「学力向上」「体力向上」が最大の課題である。特に 4 年後の 2020 年(平成 32 年)には、オリンピック・パラリンピックが東京で開催される。オリンピック・パラリンピックの成功を願うとともに、世界に通用するスポーツアスリートの育成目指し、体力・技術の向上は喫緊の課題である。本校も「学力向上」「体力・技術向上」は、地域・保護者に応える最重要課題でもある。さらに、東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピックに向けた取組は、墨田区の人情豊かな下町らしさをアピールした「おもてなしの心」と共通するものがある。相手を思いやる「心の育成」も、小梅小学校にとり、今年度だけでなく今後の継続した大きな課題でもある。

4. 今年度の取組

重点課題	重点目標	すみだ教育指針 育てたい3つの力 「挑戦」「つながり」「役立ち」と 小梅小学校の41の行動計画
確かな学力	【1】考える力の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全教科において、個に応じた学習指導と分かる授業の工夫をする。タブレット端末等のICTを有効活用した授業展開を図り、児童に興味・関心意欲を高める指導を進める。</li> <li>2 思考力・判断力・表現力育成のために毎時間「書く活動」を取り入れた授業を展開する。特に決められた時間内に、決められた分量の中で、文字言語を使い、自分の考えを適切に表現する力を付けさせる。</li> <li>3 学力状況調査等を分析・活用し「個人学習プロフィール」を有効活用し、個に応じた学習を進める。</li> <li>4 年間35回の「学力向上タイム」を毎週水曜に位置付け、意図的・計画的な朝学習を行う。また、内容については学年で相談し、学年統一の内容で実施したり、学級で取り組みたい内容で行ったり工夫する。</li> <li>5 「校長講話」「俳句づくり」「読書感想文」等、日本語を大切にす指導を行い、「美しい日本語」に対して豊かな感性の育成を目指す。</li> <li>6 図書館を活用し、読書の楽しみや国語の素晴らしさに気付かせるとともに、漢字を知る・知識を増やす・知識を深める等言語獲得の方法を知らせ、自主的に学習が進められるよう学び方を身に付けさせる。</li> <li>7 保護者の協力のもと、宿題を意図的計画的継続的に出すことにより、家庭学習の徹底した習慣を付ける。</li> <li>8 墨田区が積極的に進める放課後学習「すみだ塾」に全員参加させ、補習指導を充実しその日の「学習の積み残し0」を目指す。</li> <li>9 学級担任同士で学習進捗や内容等の調整・連携を十分取り合い、学年としての学力差が出ないよう均等化する指導を行っていく。</li> <li>10 教員には指導力向上を目指し、都内「指導教諭」の授業を年間1回以上出席させる。特に主任教諭級以上の教員には悉皆研修とする。</li> </ol>

豊かな心

【2】心を大切にする

- 11 「優しさと思いやりの心を育み、明るい学校生活を送らせる学校環境」を教師全員が団結力をもって構築していく。
- 12 いじめは絶対許さない学校体制の強化  
「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめ「0」体罰「0」の学校を継続する。「いじめ防止アンケート」（年3回）実施による早期発見・早期対応・早期解消をめざす。そのために、教員同士の連携を十分に取るとともに、教員一人で問題を抱え込むことがないよう複数対応・組織対応を実践していく。
- 13 学校組織連携を充実し不登校児童「0」を継続する。3日以上連続した「登校しぶり」が見られた場合、保護者と連絡を取り合いながら、学級担任が直接家庭訪問し、児童と話し合う時間をとる等、連続して休ませない学校体制を徹底する。
- 14 毎月10日を「すみだ いじめ防止の日」と設定し、学級ごとに「いじめのないクラス」を目指す。
- 15 「人権教育プログラム」を有効活用する。他校や他地区で発生した「人権上の問題」については職員会議・夕方に行うイブニングエコー等で活用を図る。
- 16 「特別の教科 道徳」導入の主旨を研究し、道徳授業年間35時間の充実を図る。また、道徳授業地区公開講座を年間1回実施し、講師による講話や地域住民や保護者からの意見を生かしていく。
- 17 墨田区クリーン推進月間に合わせた地域清掃活動を実施し、おもてなしの心を育てる。
- 18 地区防災活動に児童を参加させ、地域の一員として地域活動に溶け込ませ、社会貢献する意識を高める。
- 19 要配慮児童に対して、教職員の指導の共有化・同一歩調化を継続していく。
- 20 イブニングエコーを活用した、情報の迅速化・共有化・正確性・同一歩調化を徹底する。特に課題を抱える児童の保護者との連携を密接にする。
- 21 要配慮児童や課題を抱える児童との話し合いについては、教員は複数で対応することを原則とする。
- 22 「アイチェック」の活用・SCや、SSWとの積極的な話し合いの時間を確保し、児童の心の負担を早く解消する方向で取り組む。

		<p>23 L G B Tで悩みを抱える児童に対応した取り組みを行っていく。服装・更衣室・使用するトイレ等、児童本人や保護者と十分な協議を重ね対応策をとっていく。</p> <p>24 S N S等の発達により、相互の人間関係が崩壊したり、重大事件に発展したり事が多くなっている。このことをふまえ「小梅ルール」を自分たちの手で作り、良好な関係を維持する。</p>
強い 体	【3】運動に対する 意欲啓発 体力・耐力 の向上	<p>25 「体力向上月間」を設定し、体力をつけるマラソン・水泳・縄跳び等を意図的計画的に教育計画に位置付け、持久力と瞬発力の育成を図る。さらに、運動を継続し高めさせていく上で必要な、辛さに耐える力（耐力）も身に付けさせる。</p> <p>26 「一学級一取組」を設定し、日常的に体力アップの継続的な実践を学級として取り組ませる。廊下掲示等を活用し、他学級の取組を紹介し、体力向上の一助としていく。</p> <p>27 「墨田区食育推進行動計画」に基づき、食生活の乱れや豊かな食生活を身に付けさせるために、栄養士や食育リーダーとともに「校長講話」で話したり「食育学習」を行ったり、定着化を進める。</p> <p>28 「健康教育（身体・歯科等）」の充実を図り、生涯を通じた「健康生活」への意識化を目指す。</p> <p>29 2020年(平成32年)に開催されるオリンピック・パラリンピックに向け、各種の運動やスポーツに興味関心を高める取組を行っていく。そのためにオリンピック・パラリンピックメダル保持者を招聘し、講話や実技を直接見聞させ、オリンピック競技の素晴らしさを感じさせる。</p>
連 携	【4】コミュニケーションの充実を図る	<p>30 「幼保小中一貫教育」Dブロックの強化推進 中学校1校・小学校3校・幼稚園・保育園相互の教員間の情報の交換や連携、生徒・児童・園児間の交流を積極的に推進していく。</p> <p>31 「地域・家庭・保護者」との連携の重要性を教師全員が認識し、HP・学校便り・学年通信等最新の情報の共有化（情報のキャッチボール）を図り、児童に向けた指導の統一性・相互理解を高めていく。</p> <p>32 東日本大震災の教訓を生かし、自然災害時の減災を</p>

		<p>目指し4～6年生が実施する「学校に泊まろう」に積極参加を進め、自分の命は自分で守ることや、地域との結びつきを深め奉仕する心を育てる。</p> <p>33 災害発生前・発災時、刻々と変化する学校現場において、教職員同士の情報伝達は重要である。教職員同士の迅速で正確な情報共有・行動の統一化を図る。</p> <p>34 緊急事態発生時だけ協力を求めても地域住民は動いてはくれないことを想定し、教員は平素から地域行事やPTA活動・おやじの会等へ積極的に参加し、地域交流や地域貢献を図り、緊急事態のスムーズな運営を図る。</p> <p>35 「土曜授業」では、専門性に富んだ企業からの人材を招聘し、物作りの素晴らしさや企業の努力や製品づくりに傾ける情熱を直に学びとらせる。</p>
安全対策	【5】生命を守る	<p>36 「自分の命は自分で守る」意識の徹底を図る。 3・11から学んだことは、「100%の安全は、絶対ない」。そのために日頃から危険に対して自覚を高め、知識を学び、実践行動に移す大切さを学ばせる。</p> <p>37 迅速な避難・適切な行動・正確な情報確保等多様な想定での「本番さながら」の実践訓練を行う。年間2回を事前連絡無しの避難訓練を実施する。</p> <p>38 「安全プログラム」を活用した紙上訓練を行う。</p> <p>39 朝の会、帰りの会で「一声指導」を実施し、学校内外で安全に生活する意識を高める。特に交通事故・誘拐が下校時刻に集中することから「一声指導」を欠かすことなく継続させていく。</p> <p>40 行政・保護者との緊密な事前の連携確認・事中の対応收拾・事後の処理等スムーズな運営を図る。 特に下記訓練を計画的に行う。 ○1対1の引き取り・引き渡しの徹底 ○心肺蘇生・AED・エピペン等の研修 ○交通安全教室・セーフティ教室の実施 ○不審者対応訓練の実施 ○自然災害堤防決壊時の対応と関係団体との連携</p> <p>41 校外生活において災害・誘拐等身の危険を感じたときの避難の方法を、学校・家庭・地域が連携して行動できる態勢を徹底する。</p>

## 5. 今日の緊急課題にむけて

- ・平成 29 年度特別支援教室の設置に向けた取り組みを確実にやっていく。
- ・路上生活者に対して、正しい理解を進めるとともに、路上生活者の安全を脅かす行動を取らない等の学習を長期休業前に 3 回実施する。

## 6. 小梅小学校教師の姿

教育公務員としてのプライドをもち、自覚を高めるとともに、地域に溶け込み教育実践を進める。本校においては、本校で新規採用された若手教員が半数を超えた。社会人としても、教員としても経験が浅く、教育に対する実践力・対応力等が十分に育っているとは言えない。しかしながら、教育に対する意欲・向上心・バイタリティーには目を見張るものがある。若い教師のもっているよさを生かしながら社会人として・教師として教育の重要性を指導していく。また、学校経営の視点から、経験豊かなベテランや中堅教師と協力し合いながら小梅小学校の教育を高めていく。

本校は東京都の O J T 推進モデル校を受けた経験を生かし、研修の核として各職層に応じた「小ゼミ」を行っていく。主幹教諭・主任教諭には管理職が、教諭には主幹教諭・主任教諭が指導にあたる。また、若手教員同士で情報交換を行ったり、指導力を高め合ったりする場も計画的に設定していく。

### **明るく元気で爽やかに毎日を送れる**

#### **小梅小学校の教師集団であり続けたい**

1. 45 分の授業を毎時間大切に、今日を充実して生きる今日師
2. 児童の心に寄り添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる響師
3. 毎日の児童の成長を、地域・保護者とともに喜び、ともに歩み続ける共師
4. 教育公務員として信念をもち、責任ある行動をとり、高く強い志をもった強師
5. 学校運営を常に自己の課題としてとらえ、組織で力を合わせられる協師
6. 一日一日の指導を振り返り、確実に自己を高める努力をし、児童の手本となれる鏡師
7. 児童・保護者・地域住民から尊敬され、慕われる教師